

5G『人が「かわいい」と思うイラストの口元の共通性について』

《はじめに》

私たち日本人は半数近くの人が、日々の生活の中でストレスを抱えて生きている（厚生労働省、2016）。

ストレスを抱えたある学生が、あるイラストを見ると、「かわいい」と感じ、気持ちが癒され、ストレスが軽減する感覚を覚えた。そのイラストには「ω」の口元が使われており、同様の経験は、他の人にも共通するものであるのか疑問に思った。

かわいいと思う感覚には個人差があり、入戸野¹⁾は、人がその人にとってのかわいいものを見ると、和んだり癒しを覚える効果があると言っている。そこで、私たちは自分自身が疲れた時やストレス下に置かれた時に、かわいいイラストを活用してストレスマネジメントに活用できるのではないかと考えた。また、個人差はある中でも、より多くの人にとってかわいいと感じられるイラストの特徴や共通性を知ることによって今後の対人関係や看護の実践の場面でも、対象になる方にとってのかわいいと感じられるものを活用し、その方に癒しを感じてもらえるのではないかと考えた。

島村²⁾は、かわいいと人が感じる要素は「小さく」「白く」「丸く」「やわらかく」と言っている。そこで、全体のイラストのバランスや、口元の形の違いにより、人が感じるかわいさは変化するのかどうか焦点を当てて、今回の研究を行った。

《研究目的》

人がかわいいと感じられるイラストの特徴や共通性を知る

《用語の定義》

・かわいい……ほほえましさを感じる、守ってあげたい、小さくて頼りない感じがするところに親しみやすさをいだかせる様子。（新明解国語辞典 第七版 特装青版）

・ω口……‘オメガ口’と呼ぶ。

《研究方法》

・研究手法：質問紙調査法

配布：N＝70 回収：N＝70（100%）

有効回答数：N＝69

《倫理的配慮》

無記名式での質問用紙回答を依頼し、結果は研究目的以上は使用しない。また、研究終了後、適切な方法で破棄する。

《結果》 調査結果において

1位もこU、2位四角U、3位もこV
4位四角V、5位もこω、6位四角ω、
7位もこW、8位四角Wであった。

また、年齢や性別による差はなかった。同じ口元同士で、輪郭について比較すると、いずれの口元においても、もここの輪郭のほうが四角の輪郭よりも順位が高いことがわかった。口元について比較するとUやVの口もとのほうが、ωやwのふたつ口より順位が高いことがわかった。

《考察》

「もこω」は、1～8番に選択されるばらつきが多かったため、総合の順位としては5位となった。1位に選ばれている理由とあげられたものは、かわいいの要素（島村²⁾,1991）と一致していた。

また、丸みや角の数がより少ないシンプルな口の「U」「V」が好まれることや、全体のバランスも可愛さの要素として、重要であることがわかった。

また、「ω」口に対して、ぶりっこを連想する人の存在もあり、順位を下げていた。

《結論》

人が「かわいい」と思う理由には2つある。1つ目はかわいいの4つの要素である「小さく」「白く」「丸く」「やわらかく」が該当する点であり、2つ目は、輪郭に対する口もとのバランスやシンプルさであると考えられる。このような点を含むイラストを対人関係に活用できるのではないかと考える。

かわいさの感じ方には、年齢・文化・時代・経験・その人の状態にも影響される（入戸野¹⁾,2009）ことを踏まえ、今後子どもにはどのように受け入れられるのか研究を進めていきたい。